

日本音楽知覚認知学会平成29年度春季研究発表会 プログラム
2017年6月3日-4日 日本大学 江古田キャンパス 東棟

6月3日(土)

10:30	理事会			
14:00	開会あいさつ			
14:05	セッション1 座長：田部井賢 — (三重大学)	◎岡野真裕（東京大学大学院・総合文化研究科），進矢正宏（広島大学大学院・総合科学研究科），工藤和俊（東京大学大学院・情報学環，東京大学大学院・総合文化研究科）	2人組リズム維持課題におけるマルチスケールダイナミクス	2人組同期タッピング課題のタップ間隔時系列について，多様な時間スケールにおける協調構造を検討した．約10秒以下のスケールでは逆相関的，それ以上のスケールでは順相関的な協調が認められた．また，時間スケールと相関係数値との関係に，ペア毎の個性が表れた．
14:30		◎勝呂明央（八戸工業大学大学院・工学研究科），三浦雅展（八戸工業大学・工学部）	量子化精度の異なる音源の聴取弁別可能性 ～頭内定位の利用による検証～	近年普及しつつあるハイレゾ音源はCD音源との違いを人間が知覚できるかが不明であり，数々の先行研究では様々な手法を用いて研究が行なわれている．本研究では，頭内定位に着目し，ハイレゾ音源とCD音源を人間が識別できるかを検証している．
14:55		◎佐々木累二・山田真司（金沢工業大学大学院・工学研究科）	連続印象評定法を用いた澤野弘之の劇伴の研究 ～アニメ「進撃の巨人」を用いて～	澤野弘之の楽曲は，劇中で最も盛り上がる直前に無音となり，ボーカルと共にサビが流れるという特徴的な使い方がされている．本研究では連続印象評定法を用いて，この特徴が実際に映像の覚醒度を効果的に上げていることを示した．
15:20		◎丸茂夏洋・山田真司（金沢工業大学大学院・工学研究科）	クラシック組曲とゲーム音楽の印象変動の違い	1作のゲーム中でシーンごとに展開される音楽の印象の変化とクラシック組曲の印象変化の様子を比較した．その結果，クラシック組曲は覚醒度の変化が大きい，電子音で奏でるゲーム音楽は覚醒度の変化がつけにくい分快さの変動が大きくなるよう構成されていることが分かった．
15:45	休憩			
16:00	特別講演	原一平（日本大学・芸術学部）	日本芸能よもやま話	
17:00	休憩			
17:10	総会・表彰式			
17:40	休憩			

17:45	ポスターセッション	北村柚葵（東京学芸大学・教育学部）、北洋輔、奥村安寿子、稲垣真澄（国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所）、奥住秀之、石川裕司（東京学芸大学・教育学部）： 音楽経験が純音の音高弁別に及ぼす影響：周波数帯域に着目して 山口翔也（八戸工業大学大学院・工学研究科）、三浦雅展（八戸工業大学・工学部）： 女性アイドル楽曲を対象とした時変パラメータに基づく公開年代推定システム 林直登・山田真司（金沢工業大学大学院・工学研究科）： 安室奈美恵の「あとノリ」と聴覚マスキングとの関係
18:30	懇親会	

6月4日(日)

9:30	セッション2 座長：岡野真裕 (立命館大学)	田部井賢一（三重大学大学院・医学系研究科）、佐藤正之（三重大学大学院・医学系研究科）、小川純一（ヤマハ音楽振興会）、時田智子（御浜町役場）、中口紀子（紀宝町役場）、仲尾貢二（紀南病院）、木田博隆（三重大学大学院・医学系研究科）、富本秀和（三重大学大学院・医学系研究科）	音楽体操が健常高齢者の脳容積にもたらす効果： 御浜-紀宝スキャンププロジェクト	本研究では、運動+音楽は、運動のみよりも視空間認知機能を向上させ、前頭葉容積を維持・増加させることを示唆した。
9:55		松永理恵（神奈川大学・人間科学部/北海道大学大学院・保健科学研究所）、Pitoyo Hartono（中京大学・工学部）、横澤宏一（北海道大学大学院・保健科学研究所）、阿部純一（北海道大学・名誉教授）	“西洋音楽-日本伝統音楽”のバイミュージカルな聞き手が示す調性的感覚の発達過程： 横断的検討	聞き手は、所属する文化の音楽に曝されることで文化特異的な調性スキーマを習得する。現代日本は、西洋音楽と日本伝統音楽の両方が存在するバイミュージカルな環境にある。では、このような環境で育つ日本人の調性的感覚は年齢と共にどのように変化していくのであろうか。本発表ではこの疑問を、横断的研究法により調べた一連の実験結果を報告する。
10:20		小島寿子（昭和大学・医学部）	楽器に対する好みと認知—パーソナリティとの関係性—	古代から音楽や楽器が心理療法として使用されてきた。Waardenburg, W. (1977)は、楽器のアピール性について、外見、素材、構造や演奏方法が何かを呼び起こす刺激や信号となり、人の好みに影響することについて言及している。そこで大学生100名に対し、楽器志向調査とBigFive尺度を使用し、パーソナリティと楽器に対する認知と好みの関係性について検証し分析した。
10:45	閉会あいさつ			

11:00	連動企画	中島祥好（九州大学・芸術工学研究院）	APSCOM京都大会に向けて： 絶対に成功する国際学会発表
-------	------	--------------------	----------------------------------

講演時間：発表18分、質疑応答5分、交代2分

◎は、日本音楽知覚認知学会研究選奨選考対象者を示しています。